第24回 事故防止誌上講習

今回は、事故を起こしてしまった運転者の輪禍についての前回の続きです。

◇第3回目は過労運転です。

観光バスは他の営業用の車と違って一般人にはイメージも良く、知名度の高いバス会社は信用度も高い、それが安全であると一般人は思い込んでいる節があります。

しかし皆さんの記憶にも残っている約3年半前の吹田市で起きた観光バスがモノレールの橋脚に衝突し、スキー客ら27人が死傷する大事故になりました。下請けの観光バス会社が起こした事故でしたが原因は**「過労運転」**でした。また風邪をひいて薬を飲んで居眠り運転して事故を起こしてしまった事例もあり、**「過労運転　届かぬ悲鳴安値競争、安全置き去りに」**と大きな見出しで載っていました。実態は交代要員がいないのを知りながら増便を要請したため長時間運転となり、その背景には安値競争があります。

安値競争が過労を強い、事故に繋がる。全般に交通事故件数が20%減少しているのに事業用車両（トラック・バス・タクシー）の事故は17%と減り方が鈍いとのことです。

上記の吹田市の事故で国交省が全国316のバス運行会社に緊急監査を実施したところ93社で長時間運転をさせるなど過労につながる違法行為が確認されています。冬場は風邪などに注意し、夏場は特に疲労が溜まり易く、ドライバーの体調管理は最重要課題で、力を入れて取り組まなければなりません。

こういう重大事故を教訓に国交省は来年度中に貸し切りツアーバスの安全度を事業者ごとに星の数で3ランクに分け、インターネットで公表する新たな制度を始めるようです。この中身は運転手の勤務実態、車両の点検状況など十数項目をチェックし、同省の担当者は「利用者は価格のみを重視せず、安全性も吟味して欲しい。それが業界の安全性向上に繋がる」としています。トラックにおいては90年の規制緩和の結果、運送事業者の数は08年には1.6倍にまで増えており、全ト協は国交省の業界振興の検討会で規制強化（案）を提言しています。

関西大学の安部教授は交通事故のほとんどがヒューマンエラーで起こっており、労働環境の悪化は事故につながる。安全にはお金がかかることを社会が受け止め、事業者の意識を変える必要があると提言されています。

◇第4回目は油断による事故です。

ある高校教師が小雨舞う国道を急いでいたため、制限速度を40km越えて、100kmで走行、カーブを曲がりきれずに後輪がスリップし、対向車と正面衝突。対向車の同乗者が死亡、家族3人が重傷を負ったものです。

この結果この高校教師は懲戒免職、自動車運転過失致死傷罪に問われ、公判の結果、禁固2年の実刑判決を受けました。服役中も被害者側遺族にどう償ったらいいのかが解らず、教師という立場もあり、教壇から生徒たちに「命の大切さ」を説いてきたのに自分が人の命を奪ってしまったことへの矛盾から眠れぬ日々が続き、自殺まで考えたが、今もってどう償ったらいいのか未だ解らずにいます。

一瞬の油断で加害者になってしまう交通事故。15年前から事故当事者の示談交渉を支援する特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）「大阪交通事故被害者救済センター」の相談員は「被害者ばかりでなく加害者も対人恐怖症になるなど精神的に参ってしまうケースを見てきた」とのことで、また警察庁科学警察研究所が02年度死亡事故の加害者23人と遺族418人を対象に心的外傷後ストレス障害（ＰＴＳＤ）に関する症状の度合いを調査したところ、事故直後に「不眠やいらいらがある」は遺族で22%、加害者で60%。「感情がなくなる」は遺族で17%、加害者で55%。「突然、事故のことを思い出す」は遺族で41%、加害者は73%と、いずれも加害者の方が多い結果が出ています。

科警研交通科学第2研究室々長は「突然、加害者になったという社会的な意味での恐怖が原因で多くの人が要治療の可能性が高い」と指摘されています。

職業ドライバーの人達は同僚等の励ましもありますが、一般人は孤立してしまうケースが多く、また一般的に考えて加害者側の深い心の傷を支援するのは難しいのが現状です。

そこで**「まずは危険認識」**が大切で運転に慣れてくるとついついハンドルとブレーキ操作で事故は避けることが出来ると思っているドライバーがかなりいます。

また、殆どのドライバーは教習所から巣立っています。教習所の実技で満点に近い成績を修めたドライバーほど事故率が高いと云われています。これは自分の運転技術に自信を持っていることが**「過信」**に繋がり易く、それが**「キケン」**をあまくみてしまうことになるのです。

安全運転講習会等でよく云われています事故の原因は**「油断・焦り・思い込み」**です。この3つが重なれば事故になる可能性は非常に高い。これは事故事例が教えています。上記の油断・焦り・思い込みはいずれも**「だろう運転」**で、これは**心の死角**が作るものです。

従って車を運転する誰もが少しのミス（見落とし、発見遅れ等）や安易な気持ちが重大な結果を招くことを認識するのが一番大切です。新たな被害者、加害者を生まないためにも！